育てあい、育ちあう

広報 NO10

わかば

２０２３年春号

（２０２３年3月２８日発行）

社会福祉法人わかば会

盛岡市西松園３丁目１９－６
発行責任者　鈴木浩太郎
☎：０１９－６６１－３１０３
fax: ０１９－６６２－５１２１
http//www.wakaba-kai.or.jp

法人の理念

＊　社会福祉法人わかば会は、子どもの人権を尊重し保護者と協力しながらその健やかな成長のために尽くすとともに、保護者が安心して子どもを預け働ける環境づくりに努めます。

＊　未来の主人公となる子ども達の権利を尊重し、豊かな乳幼児期を保障することを基本とし、保護者の皆様と一緒に保育を創っていくことを大切にしてまいります。

＊　子どもが本来持っている能力を引出し、豊かな感性を育み、一人ひとりが仲間の中でゆっくりじっくりと自分を育てていけるような保育環境づくりに努めます。

＊　子育て支援や地域福祉の向上を目指し、地域の子育ての拠点となるよう努めます。

法人運営施設

■わかば保育園　■本宮保育園　■うえだ保育園
■北松園風の子保育園
■宇宙学童クラブ　■ 第二宇宙学童クラブ

北松園風の子保育園
竹踊り

大きく翔け

吹き抜ける風の中に北松園の遅い春を感じながら、遠くから響く太鼓の音に「この季節が来たな…」と感じ、「朝からみんな頑張っているな～」と卒園式の取り組みに一生懸命な年長児の顔が目に浮かびます。

この３年間は、コロナウィルス感染症と戦う日常でした。マスク着用があたりまえの生活、常に窓を開けて換気、送迎は玄関対応になり、行事も人数制限をした時間短縮のプログラムで行いました。

様々な制限がある中でも、感染対策をしながら子ども達の発達を保障し、一人ひとりが安心して生活ができる保育、自分の持てる力を存分に発揮できる行事や活動を工夫し、より良い保育を目指してきました。

保護者会の行事も大きく変わり、恒例のバザーや秋の自然を歩こう会、親子遠足と子ども達、保護者、職員の親睦の場だったものがほとんど中止となりました。運動会や生活発表会も参加人数が決められたため、祖父母のみなさんはきっと寂しい思いをしたのではないでしょうか。

令和５年度は、今までの制約が緩和され以前の生活に戻ることを期待します。

卒園式を終えて、子ども達は季節の散歩、おとまり会、キャンプ、泥んこあそび、運動会、姫神登山、生活発表会、雪あそび、おいしい給食…とたくさんのかけがえのない思い出を胸に、未来へと羽ばたいていきます。

私たち職員にとっても、子ども達一人ひとりの思い出は大切な宝ものです。赤ちゃんの時の笑顔、けんかして泣いたこと、玄関で「ママがいい～。」と泣いている子を抱きしめたこと、初めて逆上がりができて保育園中で喜んだこと、キラキラと泉のように湧き出てきます。

ちょっぴりの寂しさを感じながら、笑顔で子ども達を未来へ送りだしてあげたいと思います。１０年後、２０年後成長した姿を思い浮かべながら…。

北松園風の子保育園園長　遠藤美紀

生活発表会

2歳児「あかずきん」

0歳児「つくしんぼちゃんいっしょにあそぼ」

4歳児「ちからたろう」

1歳児「すぎのこやぎのガラガラドンとトロル」

3歳児「ももたろう」

5歳児劇「ふき」

鬼：「うおおお～！！」

今年の生活発表会は、3年ぶりに全クラス保護者の方々をご案内して開催しました。

オープニングは、さいなかまのうたから始まり、その後は、3部構成で2クラス毎の入れ替えで行いました。

ちいさいなかまのお客さんの前でちょっぴり緊張気味の子どもたちでは、たくさんのおもしろさが、大好きなうたを元気に発表したり、つい一緒に口ずさんだりと楽しんでいるわらべうたあそびや絵本のまねっこあそびをしました。

ちょっぴり怖いものが好きなすぎのこちゃんは大好きなお話「3匹のヤギのガラガラドン」。らさんは、オオカミとのやりとりが楽しい「ずきん」のお話です。

最後の4，5歳児による「ふき」。物語にはない、役の心情も深め、どうしたら見ている人に伝わるかを考えながら取り組み、20人一人ひとりが主人公となり自分の役に自信を持って表現しました。

そして、たいようぐみが取り組んだ物語は「おおきいなかまたちのうたでは、仲間と共に心を込めてうたい、ホール中に声を響かせました。

ごっこ遊びが大好きなひかりさんは、オリジナルのアイディアたっぷりの「ももたろう」。つばささんは、動きや表現、ことばも自分たちで考えた大好きな「ちからたろう」を、それぞれが大好きな役になって元気いっぱいに表現しました。

うえだ保育園

11月25日　～リズム発表会～

民舞「荒馬」

リズム運動「マズルカ」

各園の生活発表会の様子

本宮保育園・5歳児劇「森はいきている」

わかば保育園・5歳児劇「龍の子たろう」

風の子保育園・5歳児劇「かたあしだちょうのエルフ」

卒園おめでとう

側転

全体合唱

竹踊り

豊年太鼓

各園の卒園式の様子

卒園証書授与

卒園式は、コロナの波が落ち着いていたこともあり、子ども達は、マスクをはずして行うことができました。

緊張もみられましたが子ども達の表情からは、お家の方に見てもらうことの嬉しさがあふれていました。

一部では、一人ひとりが保育証書をもらい、恥ずかしさの中にも誇らしげな子ども達の姿が見られました。また、保育園生活をふりかえり、たいよう組の一年の思い出を「よびかけ」にして発表しました。

二部では、大きく成長した姿を民舞やリズム運動、歌などで堂々と発表します。

本宮保育園では、豊年太鼓・竹踊り・ちょうちょうや側転をもりこんだリズム運動・歌を発表しました。

仲間と一緒に息を合わせ、心をこめ、最後まで自身の力をどんどん高め合う子ども達の姿に保育者も改めて子どもの素晴らしさを実感し、会場からもたくさんの拍手がわいていました。

ここ数年、歌うことができなかった全体合唱「夢わかば」は、会場が一体となりすばらしいハーモニーを響かせました。

沢山の励ましを頂き、一人ひとりが自信と誇りをもって巣立っていきました。

本宮保育園

宇宙学童クラブ

今年の冬、学童は初めてコロナの影響を強く受けました。冬休みに予定されていたゆぴあす遠足は中止になり、毎年恒例の室内ゲーム大会も予定を変更して行うことになりました。

しかし、やっぱり宇宙学童の子ども達に長期休みこそ経験できていないことをと考え、小鹿公園でのそり遊びを企画しました。ものすごいスピードで滑る勢いに大人はヒヤヒヤでしたが、子ども達は思いっきり楽しむことができました。

また、2月はけん玉とコマに挑戦。初めて挑戦する子、さらに難しい技に挑戦する子など様々。同じ技を何度も何度も練習する集中力には感心してしまいます。

今年はべいごまにも挑戦しました。子どもたちとっては初めての遊びで最初は「やらない」「いや」と言っていた子でも、いつのまにか「やってみたい！」「教えて！」ということがありました。

子どもたちの興味や関心が向いた瞬間を大切にし、思いを受け止めながらこれからも過ごしていきたいと思います。

小鹿公園でのそりあそび

毎年恒例！室内での将棋大会

将棋の部

コマ

手持ち缶のせ大成功！

わかば会の動き

※第１７４回理事会(令和４年１２月１５日開催)より

・令和４年度第１次補正予算について

・給与規程一部改正について

※第１７５回理事会（令和５年３月２４日開催）より

・物価高騰対策手当金の支給について

昨年に続き、コロナウイルス感染症による影響と近年の物価高騰による生活への負担感を考慮し、わかば会として独自の物価高騰対策手当金を支給します。

支給額は一人当たり、正職員・臨時職員５０，０００円、パート職員１０，０００円。３月に支給します。

・社会福祉法人わかば会「中・長期計画」について

令和４年７月から中・長期計画策定委員会を設置、検討してきましたが、このたび、２０２３年から２０２７年度までの５年間を計画年度として策定しました。

・令和４年度第２次補正予算について

・園長の選任について

北松園風の子保育園園長には菊地綾子さん、うえだ保育園園長は遠藤美紀さんがそれぞれ選任されました。

・令和５年度事業計画について

・令和５年度当初予算について

以上、提案された全ての議案が承認されました。

※２０２２年度キャリアアップ研修終了

３名の職員が受講し終了しました。新年度、正規職員として採用されます。

憲法守り、平和な社会を次世代に

第42回民間保育園経営研究セミナー

今年1月に開催された経営懇セミナーは、神戸会場と全国をウェブでつなぎ、５００名を超える会員がつどいました。

セミナーでは、子どもの命を守るため「憲法を守り、平和な社会を次代に残します」とのテーマで、そのためにできることを確認しました。

教育の分野では、日本は世界の流れに逆行して、集団の規律が重んじられ教科も一斉指導が続いています。この教育のスタイルが保育界にも持ち込まれようしています。

幼保小の接続期の教育の質的向上に向けて「幼保小架け橋プログラム」が文科省から出され、これに対しての問題点が提起されました。

大宮勇雄氏は、国が決めた「学校教育と同等の目標」だから、重要、明確と思われがちだが「目標」は、子どもに応じて話し合いでいつでも変更可能であること。そもそも目標達成が至上命題ではなく学びの機会を豊かに広げるための目標、助け合い励まし合いが保育とは切り離せないことと述べました。

保育実践は子どもと共に行われ、子どもの思いの中に育ちを捉えることが大切だとし、子どもの視点に立って自ら学ぶ力の育ちを捉えていこうと結びました。

給食室　保育園でつくるおやつ　メロンパン

材料（４個分）

◎パン生地

強力粉：70ｇ

薄力粉：7ｇ

砂糖：10ｇ

ドライイースト：1ｇ

牛乳：25ｇ

ぬるま湯：27ｇ

油：5ｇ　バター：5ｇ

◎クッキー生地

薄力粉：67ｇ　卵：13ｇ

砂糖：33ｇ

バター：26ｇ

※飾り用：グラニュー糖　少々

作り方

①強力粉、薄力粉、塩を混ぜ合わせ、油、室温で柔らかくしたバターを入れ混ぜる。

②人肌程度に温めた牛乳に砂糖、イーストを入れて溶かす。

③①に②を入れてこね、ぬるま湯を加えさらにこねる（水分は多そうなときは減らして下さい）

④暖かいところに置き４０分位発酵させる。

⑤クッキー生地を作る。柔らかくしたバターに砂糖、卵をいれてすり混ぜる

⑥⑤へ薄力粉を入れこねひとつにまとめる

⑦④を4個に分け丸め、手で伸ばしたクッキー生地で覆い、包丁で格子の模様を付け、グラニュー糖をつける

⑧170℃のオーブンで15分焼く

少子化だからこそ豊かな保育環境を

日本で少子化が政治問題として本格浮上したのが、１９９０年の「1・57ショック」からだとされています。

政府は、少子化対策として１９９４年の「エンゼルプラン」を皮切りに、次々と対策を打ち出しましたが、歯止めどころか少子化の速度が増しています。

２０１６年に出生数が、初めて１００万人を割ってからわずか6年の２０２２年には８０万人を切りました。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、２０２２年の出生数を８５万人。７７万人になるのは２０３３年と予測していました。

実態は推計より１１年も早く少子化が進行していることになります。

内閣府が行った国際比較調査（２０２０年度）では「自国が子どもを産み育てやすい国と思うか」との問に「そう思う」と答えたのは、フランス、ドイツ、スウェーデンが８～９割に対して日本は4割未満です。

また、夫婦が理想の子ども数を持たない理由として最も多いのが「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」ということです。

高すぎる子育て費用や教育費用が、子どもを持ちたいと願ってもかなえられない社会になっています。

岸田文雄首相は「異次元の少子化対策」を3月末を目途に取りまとめるとしています。「異次元の少子化対策」をいうのなら、自己責任ではなく、社会全体で子育てを支えるという理念を政策の原則に据えるべきです。

盛岡市の少子化と対策

盛岡市の出生数は、２００８（平成２０）年度の２５６４人が、２０２２（令和３）年度は１９０１人まで落ち込んでいます。

保育所では、入所児童数が定員を下回る事態が生まれ、これまでの待機児童対策が一転して定員割れへの懸念が拡がっています。

盛岡市は、少子化傾向が続くもとで「第2期盛岡市子ども・子育て支援事業計画（R2～R6年度）」の中間見直しを進めています。

少子化だからこそ、子どもにも保育士にも余裕のある保育が可能な状況が拡がっています。

見直しにあたっては、市独自の保育環境の拡充と公的責任の堅持を求めたいと思います。

社会福祉法人わかば会「中・長期計画」

策定にあたっては、職員の全員参加による検討を行い基本理念をひとことで言えるように「～共に　育ちあい　つむぎあう～」をわかば会のひとこと理念にしました。

予測を超えて進む少子化のもと、保育所利用者の減少が現実的になっています。「わかば会」は、保育所運営の安定化と保育士確保の強化を図り、子ども達の人権が守られる保育を進めることを第一に、公的責任の堅持・発展と喫緊の課題となっている最低基準の見直し改善に向けて運動を進めるとしました。

５年の計画期間には、以下の７つの重点項目について課題解決を図ります。

①職員の安全とメンタルケアの確保　②研修計画の策定　③子どもへの人権侵害にあたることはしない　④苦情解決・相談体制の整備　⑤運営費や補助金の適正な取り扱いの徹底　⑥適正な収益の確保⑦ＢＣＰ（事業継続計画）の策定（感染症や災害時など不測の事態でも事業継続できるよう計画を策定）

あとがき

風の子保育園のお別れ会に行ってきました。ホールに在園児、先生たちが見守るなか１３名の卒園児が入場。子どもたちは、それぞれ入学する小学校と入学したら何をがんばるのかと問われて「勉強」「早寝早起き」「算数がんばる」と元気に答えていました。

２月の生活発表会、３月の卒園式そしてお別れ会と子ども達の姿を見てきましたが、わずか1か月ほどですっかり小学生の顔（表情）になっていました。

子どもは、節を乗り越えるごとに大きく成長するということを実感したお別れ会でした。

卒園児の皆さんは、両手いっぱいに在園児たちからのプレゼントを手に、大きな拍手のなかを退場していきました。卒園おめでとう。（礼）